

## 『ふるさと自慢 土浦市』

まえがき

私の生まれ故郷は茨城県の南西部である（現在の「つくばみらい市」、つくば市の南側）。ここで小学校、中学校生活を過ごし、その後高校は1, 2年を水海道（現在の常総市）の高校に通い、3年からは土浦の高校に転校し卒業した。当時の私の行動範囲は自転車とバス利用ながら相当広いエリアであった。今回はふるさとの概念を広く捉え、自慢出来るネタを多く持つ「土浦市」とその周辺について記述します。情報が錆び付いている可能性もあることをご容赦ください。

### 土浦市

土浦市は全国的にはあまり知名度が高くはない。一般的なイメージは「茨城県中央部で、霞ヶ浦に近く、レンコンの生産高が多い、筑波山にも比較的近い」であろう。いずれも間違っていない。そこで、もう少しこの地域を知って頂きましょう。

#### ●土浦の名の登場、歴史

昔 茨城県は常陸国（ひたちのくに）とよばれた。「土浦」の名が最初に登場するのは中世で、京都の東寺の「信太荘」という荘園の一部であったと記録されている（東寺古文書）。その後、中世を通じて地方豪族の八田氏や小田氏が筑波郡（つくばごうり）とその周辺一帯を支配、戦国時代には常陸国北部の佐竹氏の勢力が拡大し、この地域もその支配下に入った。

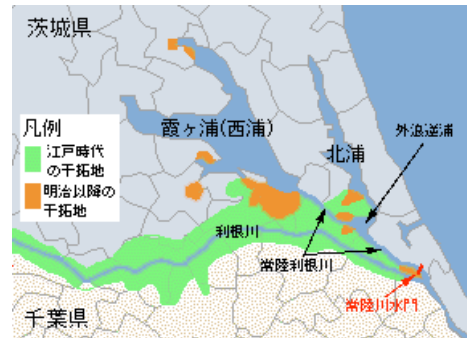


江戸時代に土浦藩主として長く当地を支配したのは土屋氏である。土屋家二代政直は、将軍綱吉以降4代の将軍に仕え、老中在任30年余、石高9万5千石の大名でした。江戸時代初期の慶長9年（1604年）には、江戸と

水戸を結ぶ水戸街道が開通し、一方利根川の東遷事業（東京湾に注いでいた利根川の流れを銚子湾に注ぐように水路変更した大事業）も長い年月（1594年～1654年）をかけ銚子への変更にも成功したので、土浦は霞ヶ浦経由利根川を遡り江戸湾に至る水路も通じて江戸への水運も出来、交通の要衝として栄えた。当時の土浦からの流通物品は年貢米、醤油（当時土浦の名産品だった）油、木材などでした。明治以降は鉄道便の普及で徐々にこの船便は消滅した。（本稿「茨城県の歴史」より）

## ●霞ヶ浦

「浦」という呼び名は、海の入江であり海水が入り込む湖である（汽水湖）。しかし長い間に砂州や河川堆積物により海への出口が閉ざされて、1963年の治水と塩害防止を目的として作られた常陸川水門の完成で淡水化が進行し、現在はほぼ淡水湖と言ってよい。霞ヶ浦は、地理学上は、西浦、北浦、外浪逆浦（そとなさかうら）、常陸利根川の全体（面積220km<sup>2</sup>）を含めて指すが、通常は西浦のみを指すことが多い



★ここで忘れてならないのは、戦前の航空基地としての霞ヶ浦である。1916年土浦からすぐ近くの阿見町に「霞ヶ浦航空隊」が設立され、1939年には「予科練」（14才から17才の少年が対象、パイロットになるための基礎訓練所）が横須賀から移転し、終戦までにこの基地から多くのパイロットを輩出した。

戦後1966年に、ここ阿見町に「予科練平和記念館」が設立された。ここには、少年達の訓練風景を写した写真（土門拳撮影）や当時使用された教本、用具、日常生活の様子などが展示されている。隣接の「雄翔館」には予科練戦没者の遺品が数多く陳列されており胸打たれる思いがする。「予科練平和記念館」の存在を逆に私に教えてくれたのは当布施新町の「歩こう会」の皆さんである。

### ★霞ヶ浦の観光

◎かすみがうらマラソン 例年4月の第3日曜日に霞ヶ浦湖畔で開催されるマラソン大会で土浦市とかすみがうら市をコースとする。ランナー数は2万6千人をこえ、東京マラソンに次ぐ日本第2位の規模の市民マラソン大会である。日本陸連公認コースとなっており、またサポート体制も良いので96年からは盲人コースとしても認定されている。

◎霞ヶ浦遊覧船 土浦港からは霞ヶ浦遊覧船が出ている。通常時の霞ヶ浦遊覧コースは、所要時間約40分である。夏場の7月下旬～秋10月中旬の土、日、祝日には帆曳船見学コースも運航されている。夏 さわやかな風を受けながら湖上を巡ってみよう。



帆曳船～

### ★土浦市内の観光

◎花火大会 例年10月の第1土曜日に



桜川で行われる「土浦花火大会」は日本三大競技花火大会の一つであり、約60の煙火業者が参加、約2万5千発の花火が打ち上げられる。(他の二つは、新潟県長岡と秋田県大曲の花火大会) 優勝者には、総理大臣賞も授与される。

◎**亀城公園** 戦国時代末期の築城とされる土浦城の一部を整備した公園で城壘が水に浮かぶ亀のように見えたことから亀城とよばれた。土浦城は平城でたびたび水害に見舞われたとの記録もあり、一面水の中 城壘だけが高いのでそのように見えたのかと思う。今公園の池には小さい亀がご愛嬌に泳いでいる。ここだけは今も昔も変わらない。

◎**国の重用文化財になった学校建築**

土浦市真鍋の台地にある「土浦一高」(筆者の母校)の旧本館は明治37年竣工の学校建築物であり、国の重用文化財の指定を受けた。ゴシック様式を基にしたドイツ風校舎で、県内には明治時代に同じ建築家による旧制中学校校舎が数多く建てられたが老朽化で取り壊され今は残っているのはわずかである。これまでにテレビのロケ地としてたびたび使われた。



県立土浦第一高等学校 旧本館

例えば

- ①NHKドラマ 「白洲次郎」 旧制中学校
- ②NHKドラマ 「坂の上の雲」 大学予備門
- ③NHK朝ドラ 「おひさま」 (2011年) 安曇野女学校 など

◎**土浦のまちなか案内** 市内の散策に当たっては地元の観光施設の「土浦まちかど蔵 大徳」に立ち寄り街の見どころを聞くとよい。自転車も借りられるので市内を巡るのに便利だ。腹が減ったらお勧めの店でレンコン料理を食べてみよう。

●**筑波山観光**

広い関東平野で富士山と共に古来知られた山である。筑波山は栃木県と茨城県の県境に位置する八溝山(標高1022m)系の最南端の山で標高は877mと低い日本100名山にも選ばれている。

万葉集には、筑波山について25首が詠まれていて、富士山の9首をはるかにしのいでいる。この中の一首、丹比真人国人(たじひのみひとくにびと)の歌には、「鶏が鳴く 東の国に高山は 多(さわ)にあれども 二神(ふたかみ)の 貴き山の並み立ちの 見が欲し山と 神代より 人の言い継ぎ」とある。(東国に高い山は数多くあるけれど 二つの神が祭られている尊い山である筑波山は 遠くからみる人

たちを惹きつける神秘的な力を持っていると神代から言い伝えられてきた。) 二神は東の峰(女体山)と西の峰(男体山)であり、東の峰では春と秋に坂東(ばんどう) 一帯の男女が飲み物や食べ物を持ち寄り集い、楽しく歌を詠みあう(歌垣/かがい) 自由な男女交流の習慣があった。一方西の峰(男体山)は、信仰の対象とされ、一般の人は容易に立ち入り出来なかったという。

### ★登山のルート

多くの人は既に筑波山に登った経験をお持ちと思いますが、まだ登っていない方の為、念の為下記の案内をします。

- ① 電車利用 TXつくば駅で 関東鉄道バス「つつじヶ丘行き」利用、筑波山神社入口まで約40分、終点つつじヶ丘まで約50分
- ② マイカー利用 常磐自動車道土浦北ICより国道125号、県道14号・42号で 筑波山神社入口まで約20km、つつじヶ丘まで25km
- ③ 頂上へのアクセス 脚力や持ち時間でいろいろな選択肢がある。
  - ・ケーブルカー 神社横の駅より頂上駅(男体山山頂下)まで約8分
  - ・ロープウエー つつじヶ丘かから女体山山頂まで約6分
  - ・歩き つつじヶ丘から弁慶七戻り経由女体山山頂駅まで約70分

女体山頂上から御幸ヶ原(男体山山頂下)までは歩いて約20分

注) 上記のルートの他に、北西の真壁側から歩いて登る方法もある。登山者も比較的少なく 樹木も多く気持ちが良い。登山後 昔の雰囲気のある街並みを残す真壁の町を散策するのも面白い



### ●筑波宇宙センター

私が高校生だったころ、今のつくば市の中心部(研究施設の多く集まっている学園地区)は雑木林がほとんどであった。しかしその後、つくば科学万博(1985年)の開催を機に大きく変貌しここはまさにサイエンスタウン

に生まれ変わった。学園地区には多くの研究施設があるが、中でも「筑波宇宙センター」は 今一番のおすすめの見学場所だ。ここには一般の人向けにわかりやすく説明してくれるコーナーや、歴代のロケット模型、日本人宇宙飛行士が活躍する国際宇宙ステーション



「きぼう」日本実験棟の実物大モデル、また屋外には巨大なH-IIロケットの実物(全長50m)も陳列されている。宇宙の謎とロマンを体験出来る貴重な場である。筑波山に行ったついでに是非立ち寄ってはと思います。

平成28年 2月 篠塚 秀雄